

ヒットするラブソングの共通点

国語班：横井 創志郎 吉田 駿斗 新川 拓生

要約

本研究の目的は、ヒットしたラブソングがなぜヒットするに至ったのかを明らかにすることである。そこで私たちはヒットした曲の歌詞の内容を分析することによって、「あの日」などの曖昧な言葉が多いことをつきとめた。それによって本研究では、曖昧な言葉があることによって、歌詞に共感できると感じてしまうのではないかと結論付けた。

Abstract

The purpose of this study is to clarify why the big hit love song became a hit. So by analyzing the content of the lyrics of the hit songs, we found that there were many ambiguous words such as “that day”. Therefore, in this study, we concluded that ambiguous words may make we feel that we can sympathize with a song.

1. 序論

私たちは、普段よく耳にしている、ヒットしたラブソングがどのようにしてヒットするに至ったのか、リズムだけでなく歌詞にもヒットする要因があるのではないか、どのような歌詞を使うとヒットするのかが気になったので、本研究を始めた。本研究では、ラブソング 18 曲の歌詞がどのようなものかを調べて、ヒットするラブソングについて分析した。
この研究でヒットするラブソングの法則性について検討する。

2. 研究手法

まず私たちは、ヒットしたラブソング 18 曲を選んだ。この 18 曲は YouTube で再生回数が 1000 万回以上の曲を無作為に抽出したもので、「小さな恋のうた」、「愛唄」、「愛をこめて花束を」、「CHE. R. RY」、「三日月」、「プラネタリアム」、「会いたくて会いたくて」、「不可幸力」、「トリセツ」、「I LOVE…」、「高嶺の花子さん」、「君に届け」、「点描の歌」、「君はロックを聞かない」、「I LOVE YOU」、「ハッピーエンド」、「3 6 6 日」、「Lemon」である。YouTube で選んだ理由は、オリコンなどのサービスでは CD の売り上げがランキングになっているものが多く、付属品のために購入するおかげで売り上げが伸びた CD もランキングに入ってしまうので、再生回数だけで判断ができる YouTube が適切だと考えたからである。

- ①まず、選んだ 18 曲の歌詞を書き起こし、その内容から普通の恋愛ソングと失恋ソングに分けた。分けていく中で特に独創的なものは別枠とし、普通の恋愛ソングとも失恋ソングとも分けられないものはそのまま保留した。

②曲を分けた中で、共通点や普通の恋愛ソングと失恋ソングの違いなどを挙げていき、どちらともいえない曲の歌詞も分析してヒットしたラブソングの秘密を探る。

No	楽曲名	作詞	作曲	アーティスト名
1	小さな恋の歌	Kiyosaku Uezu	MONGOL800	MONGOL 800
2	愛唄	GReeeeN	GReeeeN	GReeeeN
3	愛をこめて花束を	越智志帆 等	多保孝一	Superfly
4	CHE. R. RY	YUI	YUI	YUI
5	三日月	絢香	西尾芳彦/絢香	絢香
6	プラネタリアム	愛	愛	大塚愛
7	会いたくて会いたくて	西野カナ	GIORGIO CANCEMI	西野カナ
8	不可幸力	Vaundy	Vaundy	Vaundy
9	トリセツ	西野カナ	DJ Mass 等	西野カナ

No	楽曲名	作詞	作曲名	アーティスト名
10	I LOVE	藤原聡	藤原聡	Official髭男dism
11	高嶺の花子さん	清水依与吏	清水依与吏	Back number
12	君に届け	山村隆太	阪井一生	flumpool
13	点描の歌	大森元貴	大森元貴	Mrs. GREEN APPLE
14	君はロックを聞かない	あいみょん	あいみょん	あいみょん
15	I LOVE YOU	尾崎豊	尾崎豊	尾崎豊
16	ハッピーエンド	清水依与吏	清水依与吏	Back number
17	366日	HY	HY	HY
18	Lemon	米津玄師	米津玄師	米津玄師

3. 結果

歌詞を書き起こした結果、失恋ソングと判断できた曲は7曲、普通の恋愛ソングは4曲、独創的な曲は3曲となった。残りの4曲は判断が難しかったのでいったん保留とした。

- ①失恋ソングとして分類した曲は、「ハッピーエンド」「Lemon」「三日月」「会いたくて会いたくて」「366日」「プラネタリアム」「I LOVE YOU」である。失恋ソングには、「Lemon」の「そのすべてを愛していた」や「366日」の「戻れないと知っててもつながっていたくて」などから、後悔や、過去の未練についてのフレーズが多いこと、「～したかった」などの願望の過去形が多いことが分かった。
- ②普通の恋愛ソングとして分類した曲は、「愛唄」「君に届け」「CHE. R. RY」「君はロックを聞かない」である。普通の恋愛ソングは、「君に届け」の「君に届けたい」、「CHE. R. RY」の「君からの言葉が欲しいんだ」などから、未来に向けてのフレーズ、「～したい」などの願望が多いことが分かった。
- ③「高嶺の花子さん」は自分の妄想についての歌詞、「トリセツ」は自分のことを取扱説明書のように説明している歌詞、「不可幸力」は大サビまで歌詞の内容が明らかにならないという点で、

独創的だと判断した。

- ③ジャンル分けの際に当てはめることができなかった曲は「愛をこめて花束を」「I LOVE…」「点描の歌」「小さな恋のうた」である。これらの歌詞を調べると、「あの日」「思い出」などの曖昧な言葉が多く出てくることが分かった。また、これは他のジャンルの曲にも当てはまることが分かった。
- ④全体の共通点としては、「あなた」「君」などの登場人物がいること、「愛してる」などの直接的な表現は少ないこと、「～したい」等の願望が多いことなどがあった。

4. 考察

この結果から、ラブソングの前提としては、歌詞が話し言葉であること、「あなた」「君」などの登場人物がいること、多くの曲で、「トリセツ」等の独創的な曲でさえも、願望をあらわす単語が多いことなどがあるということがわかった。さらに、全ジャンルの曲を通して「あの日」「思い出」などの曖昧な言葉が多いことから、私たちは「あの日」などの曖昧な言葉が、聞いた誰にでも当てはまるように感じることで、歌詞のストーリーを聞いた人ごとに補完できてしまい、「共感できる」と感じてしまうのではと考えた。独創的な曲は前提に当てはまることが少ないことから、私たちが考えた前提と関係なくヒットするのではないかと考えた。

5. 結論

これらのことから、ヒットするラブソングを作るためには、話し言葉を使ってストーリーを作り、曖昧な言葉で聞いた人に共感させることが一つの要因であると結論付けた。

本研究では時間の都合上曲数が少なかったが、今後曲数を増やして研究することで、ヒットソングの作詞活動に役立つことができると考える。

6. 参考文献

<https://m.youtube.com>